

留学先国名 : ドイツ

留学先学校名 : Harz University of Applied Sciences

留学期間 : 平成 28 年 3 月 9 日 ~ 平成 29 年 1 月 20 日

私はドイツ、ベルリンから電車で 3 時間程度の小さな町、ヴェルニゲローデという町で日本人が一人という環境の中約 1 年という時間を過ごしました。留学前に予定していた計画を行うには少し都会から離れすぎており現地で自分のできることを探し行動を起こしました。

この留学で得たことはたくさんありましたが、ここでは特に手に入れることができたと思うものを 3 つ紹介したいと思います。一つは多様なコミュニケーションの取り方。二つ目はプレゼンテーション能力。そして三つ目は周りを巻き込む力、周りに影響を与える力。

まず一つ目の多様なコミュニケーション能力ですが、日本人が一人という環境だったので、一からの友達作りから始まりました。初めての海外ということもあり外国人とどう接すればいいかわからない、さらには英語もままならない状況だったので己をさらけ出し仲の良い友達を作ることが難しかった。なぜそうなったのかを考えた時、第一印象の問題だと私は考えました。初めて会った時に初めてのことでただけだった私にとって精神的に疲れ、さらに自分の英語に恥ずかしさを持っていたので発言をすることが少なかったのも一つの原因と考えています。前期、後期と一緒に過ごす留学生が総入れ替えだったので、後期にそれらの失敗を生かし第一印象を大切に、留学生全員と簡単に言えばフレンドリーに自分から色々話を持ちかけ積極的にコミュニケーションをとりました。そのおかげで後期にできた友人の何人もがこれから帰国後も連絡を取り合うような仲になりおそらく自分が死ぬまで大切にしたい友人がたくさんできたと思います。

二つ目のプレゼンテーション能力ですが、これは日本で学生をしている時にはほぼなかったと言えるのですが一人で 20 分近く一つのお題について英語で説明をする。初めて私がプレゼンテーションを行った際、決して準備、練習を行ったわけではありませんでした。緊張なども重なり自分の中では最悪な結果になりました。ここで本当は終わりでしたが、教授に直談判しもう一度チャンスをいただきました。一回目は一人で準備から練習を行ったのですが、何が悪かったのか、どういった流れでプレゼンテーションを行っているのか、何を大切にしているのかなど一から友人や自分が見ていてこの人上手だなと思う人に尋ね、ほぼ全てをやりなおした状態で二度目のプレゼンテーションに臨みました。英語がまだ不自由だった分、自分の納得のいくものにはなりませんでした。一度目よりは遥かに良くなり、教授からもいい言葉をいただきました。向こうではプレゼンでの評価が多かったため毎度プレゼンテーションを行うたびに課題を見つけどのようにすれば良くなるのか工夫を凝らしプレゼンテーション能力を上げていきました。

最後に三つ目の周りを巻き込む力、影響を与える力ですが、これは抽象的で少しわかりにくい部分もあり、これが本当に人に影響を与える、巻き込むという能力なのかは正直定かではないというのが本音ですが説明させていただきたいと思います。この能力の大切さを感じたのは何度かありました。まず、二つ目の点で話した、プレゼンテーションの向上のために周りの協力を得たということ。他にも、一度テストが授業内

容に沿った交渉を生徒同士で行うというものがあったのですが、その際、関係のない学生を数人巻き込み
どうすればいい交渉ができるか話し合い、練習を行ったことがあります。また、様々な国からの留学生がいた
りしたので2週間ほどを使い毎日各々の国の料理を一緒に食べるという企画をして実行したこともありまし
た。あと、企画というほどでもないですが、英語が留学生同士の中で主なコミュニケーション言語となってい
たので少しでもドイツ語能力を向上させるためにドイツ人学生や現地の人たち、留学生を集めてバスケット
ボールを週一で行ったりもしていました。そういったことを日本では他の友人に任せたりすることが多かった自
分なので、日本人が一人になった環境で新しい自分が生まれたように思います。

最後になりましたが、これから留学を行う学生さんに向けて一つ言いたいことは、留学先の選択肢を自
分で減らさないでほしいということです。というのも自分はドイツに行きましたが、英語の勉強だけでなく第二
外国語のドイツ語を学ぶことができました。英語を学びたいという学生が多いのは事実だと思います。だか
らといって英語圏以外はダメなのかといえばそうではないと私の今回の経験から述べることができます。私た
ちが目指すところはネイティブなみの英語力でしょうか。もちろんネイティブなみの英語力があるに越したこ
とはありません。日本語が大変堪能な外国人を見たことがあると思います。しかしやはり私達と同じように話
せているかといえばそうではないのではないのでしょうか。私たちに求められる英語力は平たく言えばコミュニケ
ーションが取れるほどの英語力だと思います。それに今回私が非英語圏に行ったことで、日本人が一人と
いう素晴らしい環境に一年身を置くことができました。つらいことはもちろんありますが、帰ってきた時に気付
く自分の成長をより多く感じるためにはより大きなリスクのところへ飛び込む勇気が必要です。私の好きな
映画の中にこういったセリフがあります。『勇気とは恐れないということではなく、恐れることより大事なものが
あると判断する能力のことだ』、この言葉を励みに何度も自分で何かあるたびに『判断』をしてきました。皆
さんも悔いのない『判断』をし、一度決めた『判断』が本当に自分にとって最も良い判断なのかもう一度自
分自身に問いかけてください。